

アルプスの少女ハイジ 著者 ヨハンナ・シュピリ 発行日 1880年、1881年

『アルプスの少女ハイジ』（アルプスのしょうじょハイジ、Heidi）は、スイスの作家ヨハンナ・シュピリ（又はスピリ）の児童文学作品である。1880年から1881年に執筆された。原題は『Heidis Lehr- und Wanderjahre』（ハイジの修行時代と遍歴時代、1880年出版）及び『Heidi kann brauchen, was es gelernt hat』（ハイジは習ったことを使うことができる、1881年出版）である。

ドイツの文豪ゲーテの『ヴィルヘルム・マイスターの修業時代』及び続編の『ヴィルヘルム・マイスターの遍歴時代』からその着想を採られたもので、教養小説（成長小説）としての色彩を持ったものである。キリスト教信仰に基づく描写が多く見られる。作者も属するドイツ語圏スイスのデルフリ村（マイエンフェルト付近の架空の村。イエニンス村がモデル）が舞台となっており、中盤にはゲーテの生地でもあるフランクフルトに舞台が移る。

あらすじ

『Heidis Lehr- und Wanderjahre』（ハイジの修行時代と遍歴時代、1880年出版）

フランクフルトからデルフリ村に戻ったハイジが祖父と再開し、ハイジの説得で祖父が永年拒んできた日曜礼拝に参加するまでを描く。

『Heidi kann brauchen, was es gelernt hat』（ハイジは習ったことを使うことができる、1881年出版）

実写

1937年：『ハイデイ』 アメリカ映画（88分）

出演：シャーリー・テンプル（ハイジ）、ジーン・ハーショルト

1952年：スイス映画（100分）

出演：エルスベート・ジグムント、ハインリヒ・グレットラー、トマス・クラメス、テオ・リンゲン

音楽：ロバート・ブルム

監督：ルイジ・コメンチャーニ

ハイジはスイスの高山（アルム）で祖父（アルムおんじ）と一緒に生活している。ハイジは友人ペーター（山羊の家畜番）と一緒に、山での生活を送る。その後ハイジは、ゼーゼマン(Sesemanns)家の一人娘で、病気のため立つことができないクララ(Klara)のために都市へ送られた。ホームシックと友情の物語。

1955年：Heidi und Peter（1952年の続編）

出演：エルスベート・ジグムント、ハインリヒ・グレットラー、トマス・クラメス

音楽：ロバート・ブルム

監督：フランツ・シュニーダー

ハイジはスイス・アルプスにいる祖父の元に帰る。病気だったクララ・ゼーゼマンは清潔な高山の空気において健康になるために、スイスのハイジの元へ送られた。

1965年：ドイツ/オーストリア映画（110分） この映画を上映 但し日本公開は87分でした。

出演：エバ・マリア・ジングハンマー（ハイジ）、グスタフ・クヌート（アルムおんじ）、Michaela May（クララ）、ヤン・ケストラー（ペーター）、エルンスト・シュレーダー